

# 豊田高専広報

第126号

2021.3.10

National Institute of Technology (KOSEN), Toyota College



## CONTENTS

- 01 巻頭言
- 02 遠隔授業
- 03 ロボコン
- 04 情報機器管理コンテスト/アマゾンロボットコンテスト
- 05 国際交流ビデオコンテスト/デザコン
- 06 オープンキャンパス/創造工房棟
- 07 豊田高専に入学して
- 09 体育祭
- 10 こうよう祭
- 11 海外留学体験
- 13 学生会だより(新旧学生会)
- 14 学寮だより(新旧寮生会)
- 15 卒業生メッセージ
- 17 修了生メッセージ
- 19 外国人留学生卒業・入学メッセージ
- 20 新任教職員
- 21 退職教職員
- 22 令和2年度卒業・修了予定者の進路状況
- 23 フォトカレンダー

# 巻頭言



たがわ ともひこ

豊田工業高等専門学校長 田川 智彦

## 新しい日常へ

広報誌の偶数巻は毎年10月末に発行され、体育大会や寮祭報告、留学体験記など豊田高専らしさ満載の紙面でした。ところが令和2年度はコロナ禍により8月まで閉校となり、広報誌秋号の出版も見送られました。こうした中、コロナウイルスと共生する「新しい日常」が模索されています。本校でも日常は大きく変わりました。これを記憶にとどめるため、この場をお借りして本校危機管理の概要を紹介させていただきます。

新規ウイルス性肺炎が当地で蔓延中との報を受け、2月21日に、本校運営のための危機管理室を招集しました。すぐにホームページ上に緊急通知コーナーを設け迅速な情報発信と丁寧な情報共有を図りました。2月27日には首相から一斉休校の要請が出され、「いのちを守る」ことを最優先とし、2月29日に閉寮、臨時休校しました。これ以降、部活動を含め、全ての行事は原則中止となり構内から学生の姿は消えました。卒業式は規模を縮小して挙行了ましたが、入学式は中止しました。満開の桜の下、校長によるビデオメッセージで入学の許可と祝意を発信しました。

こうした中、5月7日から「学びを止めない」ため、遠隔での授業を開始しました。若手教職員を中心に“草の根お助け隊”が立ち上がり、スムーズな授業開始に貢献してくれました。一方で、「高専教育の特徴」である実験や実習が大きな問題でした。そこで6月15日からは、少人数で寮の心配のない専攻科で分散登校を実施し、課題を抽出しました。そして、本科も徐々に分散登校を開始しました。検温や体調記録を前提に、担当教員が実施内容を申請し、校長が登校を許可する形で、卒業研究、実験、実習などを行いました。7月4日には1年生全員が初登校し、対面の学年集会を

開催しました。分散登校を伴う遠隔授業は8月7日まで続けました。夏休みに入ってから感染症対策に配慮しつつ、徐々に部活動も再開しました。しかし、本校の特徴の一つである海外留学が中止となり、中途帰国者と出発取消し学生が重なる事態となりました。留学生諸君も大変な状況下に置かれました。

対面授業再開を8月31日と設定し、学校再開のマニュアルを整備し、8月9日には学生・保護者向け説明会を遠隔で実施しました。残念ながら学寮は、個室又は2名使用とし、隔離室も設定したため、通常の約半分の収容数となりました。このため1年生全員の入寮は不可能となり、通学時間が片道2時間を超えるケースが多発しました。そこで、始業を15分遅らせ、授業時間も短縮して、不足分は補講を行う措置を取りました。

後学期に入ってから、感染症対策を取りつつ、学校説明会、オープンキャンパス、体験入学等を対面で実施しましたが、大勢の皆さんに参加いただきました。学内行事でも、体育祭やこよう祭を対面実施しました。実行委員会や参加者が感染対策に大いに配慮してくれたことは新しい日常が学生諸君にも浸透したことの証左と考えています。詳しくは、本文をご参照ください。一方で、高専体育大会、高校野球やスキー教室、研修旅行など中止となった行事も多く、つらい思いをした学生諸君もたくさんいます。いまのところ感染者は出さずにいますが、「新しい日常」が学校に持続的な平穏をもたらしてくれることを祈る毎日です。

皆様におかれましては、このような本校の「新しい日常」にご理解を賜り、これまで同様、ご支援・ご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

環境都市工学科 教授 **小林 睦**

昨日の常識が、明日にはそうでなくなる。それを実感したWithコロナの遠隔授業であった。教室という空間的な制約の中で誰もが同じことを求められてきたBeforeコロナの授業と、受講側が好きなスタイルで、しかも自らのペースで学習し、授業で求められる目標に到達していくAfterコロナの授業の可能性を見た気がする。これこそが、学生主体の学びではないかと感じたのである。少し振り返ってみたい。

ひょんなことから、遠隔授業実施の旗振り役に指名され、対面授業再開を待つ守りの姿勢から、できることを考えて実施する攻めの姿勢転換の重責を担うこととなった。高専機構理事長の「学びをとめるな」の号令を受けて、当然のことといえば当然のことであるが、遠隔授業の準備をしていなかった本校では、教職員が抱える不安はいかばかりであったろうか。

4月は、遠隔授業を実施するにあたって準備するべきことを洗い出し、今あるデバイスでどこまで対応できるかを検討した。文系・理系問わず、教育の質を維持するための小集まりが自然発生的にでき、授業で使うことになるTeamsをベースに会議やファイルのやり取り、授業の実施方法についての意見交換が活発に行われた。さすがである。技術者を育成する高専の教員の気概は、不安が渦巻く空気を希望へと変貌させるのに十分なものであった。一体何を成し遂げられるのだろうか。写真1は、物理担当教員の自作書画カメラを紹介した動画の例である。デスクスタンドにマスクをひっかけ、そこにスマートフォンを設置している。このような素敵なアイデアのいくつかを参考にして、教員向けに遠隔授業に移行するために要点をまとめて、説明動画を配信することとした。同じく、受講側の学生が遠隔授業を受ける注意点、Teamsの使い方等をまとめた図2のようなスライドを使った動画を配信するとともに、入学しても登校できていない1年生には、遠隔学年集会で丁寧に説明した。

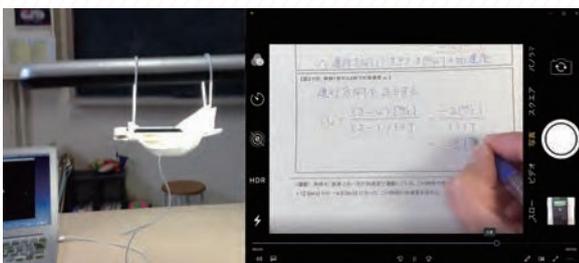


写真1 自作書画カメラ(榎本先生提供)

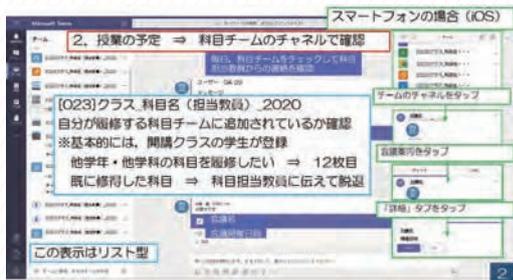


図2 遠隔授業の受講について

さて、遠隔授業に移行してからも教職員の試行錯誤は続き、情報交換も活発になされていった。皆さんのプロ意識には頭が下がる。ここでは高専の特色といえる実験実習における遠隔授業のアイデアを紹介しよう。例えば、機械工学科の基礎実習では、自宅に居ながら溶接の手技を学んでもらうために図3に示すような溶接トーチを学生に自作してもらい運棒の練習メニューを作成している。まさに前代未聞のシミュレーターである。

### (実習) 運棒練習

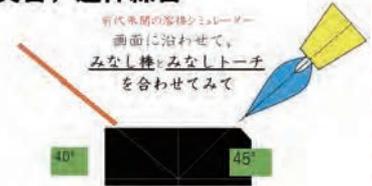


図3 自宅での溶接練習(寺田さん提供)



図4 バーチャル実験室(松本先生提供)

建築学科では、教室のキャパシティを考慮しなくていいことに着目して、3、4年生合同のチームを15ほど結成し、デザインコンペティションに向けた設計に取り組むメニューを用意した。環境都市工学科の実験では、バーチャル実験室なるものを想定し、実験者目線で試料採取から分析に至るまでの工程を動画に収め、学生が実験を疑似体験できるメニュー考えた。写真4にそのキャプチャー画像を示す。このように、教職員は、できない理由を探すよりも、どうしたら学生の学びを止めないでいられるか、をポジティブに考えて行動してきた。

では、学生たちはどうだったかという、6月に実施した遠隔授業に関する意識調査では、画面を見続けるので疲れるといった意見も少なくなかったが、図5に示すように、遠隔授業であっても対面授業と同様の教育効果を感じていることがうかがえた。従来の一方通行の授業から、双方向のアクティブラーニング型授業へのトライアルが功を奏したのではないかと思われる。Withコロナの遠隔授業では、ICT活用の効果に加えて、授業手法や学習評価の課題が見えてきた。Afterコロナでは、この課題をクリアした授業がなされるであろう。

最後に、従来と異なる授業形態に戸惑いながらも、「学びをとめない」ために努力してくださった教職員の方々に感謝の意を表します。本当にありがとうございました。

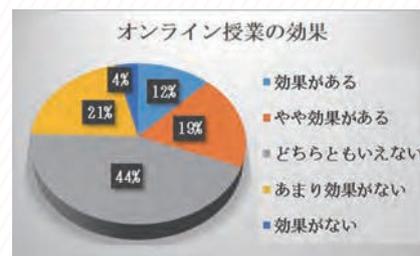


図5 学生の意識調査結果



## 初めてのオンラインロボコン

Aチーム 技術部 <sup>いけと</sup>池戸 さくら  
 今年のロボコンは自宅や学校からロボットのパフォーマンスを披露するオンラインロボコンという形式となり、テーマも「暮らしを豊かに、人々を幸せに」するロボットを作るというものです。何をすれば得点と明確に点数が決められたルールでしたが、今年は「幸せ」とは何かという哲学的なことを考えさせられる非常に難しいルールでした。Aチームでは幸せとは「自由な時間を作る」ことと定義し、1台のロボットが画像認識をして自動で動き缶を回収し、もう1台のロボットがその缶を受け取り、潰して、ゴミ箱に投げ入れるというような、人間の仕事を肩代わりしてくれるロボットを製作することに決めました。



休校と遠隔授業により、学生が学校に来れたのは8月下旬。ロボットの製作に使える時間が短いため、積極的にレーザー加工機を使う設計を心掛けたそうです。

プログラマーが一人しかいない中、ロータリーエンコーダ(モー

タなどの回転速度を読み取るセンサ)の不調に悩まされました。ロータリーエンコーダが動かない以上、自動制御をすることができないため、大会の数日前に急遽、有線の手動制御に切り替えました。

大会では缶を回収し、もう一台のロボットに渡すところまでは見せられたものの、缶を潰して投げ入れるというところは見せられませんでした。当初立てた計画通りに進まない場合は、どこかで計画を修正しなければいけません。計画を変更する時期が遅くなれば遅くなるほど変更に使える時間が短くなります。そのことに身をもって体験できたのは学生の今後の大きな成長に繋がると思います。

最後に、日頃よりロボコン活動にご援助いただいている豊田高専同窓会、豊田高専教育後援会関係者の皆様、温かく見守ってくださる保護者の皆様、初めてのオンライン開催で普段と勝手が違う中ご尽力頂きました教職員の皆様に心より感謝申し上げます。



## オンラインでも、ロボコンならできますよね!

Bチーム 情報工学科 3年 <sup>やまだ ゆうと</sup>山田 雄斗  
 今年は、高専ロボコンも新型コロナウイルスの影響を大きく受けました。例年、その年のルールは5月上旬に発表されますが、今年は6月下旬によく発表されました。さらに、そのルールというのがなんとオンラインで開催するというものでした。また、ルールは審査員がつける得点を競うというものでした。例年と全く違うルール、開催方法に部員全員が頭を抱えました。



今年のロボット製作の過程で一番大変だったのは「アイデア出し」でした。特に直接会って話し合いができないこと、評価の基準が今までとは全く異なったことがアイデア出しを困難にしました。本校では8月下旬まで登校しての活動ができなかったため、アイデア出しはすべてオンラインで行いました。オンラインでは顔を見ながら話し合いづらいため、全員の意見を取り入れることが困難でした。そこで一人ずつ名前を呼んで意見を求める、できる



だけカメラをオンにして話す、人のアイデアを否定しないといったルールを作り、直接会って行うアイデア出しにできるだけ近づける工夫をしました。また、ロボットの評価が「暮らしを豊かに、人々を幸せにする」という抽象的な基準で決められるという事も、頭を悩ませる要因でした。ロボコンのアイデア出しにおいて「スタンダードなアイデア」を考えることは大切なことですが、今年はそれすら考えることが困難でした。このような問題をひとつずつ解決していき、1か月半ほぼ毎日オンラインでミーティングを重ね、アイデアが決定しました。

このようにして決定したアイデアは豊田高専学生寮の伝統行事である「ドミトリー大賞」をロボットで再現するというものでした。また、それだけでは他高専のアイデアに埋もれると考え、「豊田高専しか思いつかないものを」と考えた結果、SNSと連動したドミタイを実現することになりました。



ロボットの製作は多少のトラブルはありましたが、何とか東海北陸地区大会1週間前には完成し、例年と比べかなり練習をすることができました。その結果、アイデアと映像の見せ方が評価され、地区で2番目の高得点を獲得し全国大会に進出することができました。全国大会ではロボットの衣装やダンスを一新し、SNSとの連携も地区大会より見ている人が参加したくなるように改善しました。しかし、得点は50点満点中30点と全国大会のレベルの高さを痛感しました。決勝に進出することはできませんでしたが、約半年、部員全員で作上げたロボットをミスなく披露することができたことで、とても達成感を得ることができました。

半年間のロボコン活動を支えて下さった指導教員の先生方、ご支援いただいた同窓会、教育後援会の方々、一緒に全力でロボットを作ってくれた部員全員、また両親に感謝申し上げます。来年以降の豊田高専ロボコンBチームはさらに全国大会で活躍する強いチームになると確信しています。今後とも応援よろしくお願いたします。



## 外部コンテストに出る意義

情報科学専攻 1年 <sup>ほどた</sup> <sup>りょう</sup> 程田 凌羽

私は5月30日に行われた危機管理コンテストに豊田高専のチームDICEの一員として参加し、文部科学大臣賞を受賞しました。

このコンテストは1次予選、2次予選、決勝戦で構成されています。1次予選では顧客企業のコンサルタントとなって、受けた依頼に対するアドバイスをを行います。依頼の内容としては実際に起こりえる障害やトラブルとなっており、これに対して原因と考えられる可能性やその解決方法を提案します。この1次予選では発生した障害に対する可能性の網羅性や、作成したチケットの可読性等を評価されます。

2次予選、決勝戦では情報システムの管理会社となり、実際に発生する障害の対処を行います。1次予選では、アドバイスにとどまりましたが、2次予選では実際に自分たちの手で障害を解決します。この2次予選では実際に障害が解決したかも評価されますが、電



競技中の様子

話やメールの対応など、顧客に対する対応も評価されます。

同じコンテストに昨年度も参加しましたが、惜しくも2次予選敗退となってしまいました。その時の雪辱を果たすべく、本年度は昨年度の反

省を踏まえて参加しました。順調に1次予選、2次予選と勝ち進み、ついに決勝戦へ進むことができました。

本来決勝戦は白浜で行われる予定でしたが、今年はコロナウイルスの影響

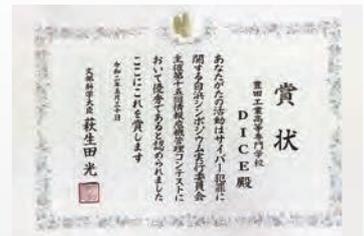
でリモート開催となってしまいました。従来とは異なる環境での開催に戸惑うこともありましたが、チームメイトとの協力の結果、文部科学大臣賞という栄誉ある賞を受賞することができました。

今回のコンテストでは多く

の価値ある経験を得られた反面、自分の力不足を感じる点も多かったです。良い経験も反省すべき経験も今後の学習に役立てていきたいと感じました。普段生活しているだけでは得られない経験を得られ、今までの学習が役に立つことが感じられるため、皆さんも積極的にコンテストに参加してみたいかがですか。



チーム全員の写真



賞状

## アマゾンロボットコンテスト

### 学生対抗ロボットアプリコンテスト

電子機械工学専攻 1年 <sup>はりま</sup> <sup>ともき</sup> 播磨 朋紀

9月15日にオンラインで開催されたAWS (Amazon Web Services) Robot Delivery Challengeにおいて、3位に入賞しました。本コンテストはAWSが用意する規定のロボットを自作したアプリケーションを使ってオンラインで動かし、ミニチュアの街に設置されたコースを走らせ、コース各所に点在する住宅に所定の商品をどれだけ早く届けられるかを競うものです。

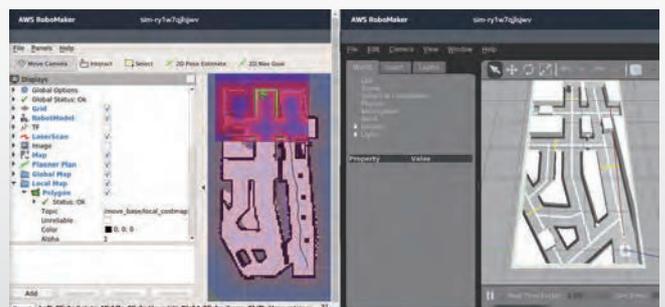


本年は新型コロナウイルス感染症の影響で、専攻科は3月から5月まで休校となりました。私は専攻科の特別研究でロボットについて研究していますが、休校期間中は登校が禁止され、研究を思うように進められませんでした。そのため自宅で研究に関する文献調査をする中、3月にAWS主催でロボットコンテストが開催されることを知りました。大会で用いられるロボットは私の研究で使用しているロボットと同じくROSと呼ばれるソフトウェアプラットフォームを使用しています。ROSの勉強もかねて、AWS Robot Delivery Challengeに申し込みました。

シミュレーション予選は実機を用いず、コンピュータの中で仮想的にロボットを動かして所定のタイムを計測しました。118チーム中10位となり、決勝に進出しました。

9月に行われた本選は横浜で行われる予定でしたが、コロナウイルス感染症の影響により、オンライン開催となりました。本選では、横浜の会場にあるロボットを自宅でカメラの映像を見ながら操作し、配達に要する時間を競いました。プログラムが実機で問題なく動くか不安でしたが、3位入賞となりました。

今回のAWS Robot Delivery Challengeは4人で参加しているチームが多い中、個人参加となりました。また、プログラミングの経験がないため、入賞できると思っていませんでした。しかし、先生方や友人のご指導、ご協力のおかげで望外の結果を得ることができました。この大会で得られた経験をもとに、研究に励もうと思います。



## ●●● 豊田高専発! 国際交流ビデオコンテスト開催

いちかわ ゆり  
一般学科 准教授 市川 裕理

### コロナ禍でも、オンラインでつながるビデオコンテスト

今年度、本校では独自に国際交流ビデオコンテストを立ち上げました。これは、高専生が海外の学生とペアになり、Teamsなどを使って共同でプレゼンビデオを制作するというプロジェクトです。約2か月間の間に数本の動画を作成し、最後の1本について学内含め、学外の方々にも審査をしていただきました。最終動画のテーマはSDGs (Sustainable Development Goals)に関するもので、今ある問題を踏まえた上で、自分たちに何ができるのかをペアで考えるという内容です。第1期は6月から8月にかけて、第2期は10月から12月まで行い、第2期については豊田市内の高校生も参加し、海外学生を含めると52名が参加する大規模なイベントになりました。

第1期と第2期の優秀ペアについて、ご紹介いたします。

### 第1期入賞ペア

#### 最優秀賞

山口 耕平さん(環境都市工学科 4年)  
& Miss. Leticia Conte Zulian (ブラジル)

#### 第2位

平田 創一朗さん(昨年度卒業生、現名古屋大学)  
& Mr. NGUYỄN QUANG HIẾU (ベトナム)

#### 第3位

上田 悠月さん(建築学科 3年)  
& Miss. Camilla Bischoff (ドイツ)

### 第2期入賞ペア

#### 最優秀賞

宮本 航太郎さん(電気・電子システム工学科 2年)  
& Miss. Wannida Lamoontkit (タイ)

#### 第2位

鈴木 啓修さん(電気・電子システム工学科 2年)  
& Miss. Paphapin Inpleng (タイ)

#### 第3位

竹澤 諒さん(情報工学科 1年)  
& Miss. My Hanh Dao (ベトナム)

コンテストで優勝した海外学生を3月に本校で行うセミナーにご招待する予定でしたが、コロナの状況が改善されず、残念ながら延期となってしまいました。来年度3月にお会いできることを願っています!



第1期オンライン表彰式(海外からも遠隔参加)



第2期優勝ペア動画より

## デザコン

この度、デザコン2020年in仙台名取の本選に出場しました。テーマは「子供パブリック」でした。廃墟を抜けのある余白として読み替え、子供達の居場所にする設計計画の提案を行いました。予選を勝ち抜き、本選には進むことができましたが、結果としては入賞ならず…ということで結構ショックを受けました。しかし、他高専の作品からは多くの刺激を貰いました。この点は今後活かしていこうと思っています。以下では、大会の感想と他高専の作品から得たことを伝えたいと思います。

まず今年はコロナウイルスの関係で初めてのオンライン開催になり、どんな大会になるのだろうと心配しましたが全くの杞憂でした。むしろ例年より、オンラインだからこそコミュニケーションを取ろう、はっきり意見を伝えようという意識が全体として高かったのではないかと感じています。提出物自体の質も高く、建築設計というよりは作品としての興味が惹かれるものが多かった印象です。そんな中で最優秀賞、優秀賞を取ったチームは、作品の表現がとても上手でした。作る過程を動画にしたり、パワーポイントをかわいくつくったりと、誰が

## 建設工学専攻 1年 稲垣 穂高・佐藤 優真

見ても唸るような発表でした。また、手描きでユニークな表現をしていたチーム、おとぎ話のような語り口で発表を行うチームなど、作品を作るだけでなく、どのように伝えるかということをよく意識されていたのではないかなと思います。悔しいですが、ここが特に足りなかったところであり、表現力の重要度を再確認することができたところでした。そして、この点はこのからデザコン等のコンペに応募していこうと思っている方々にもぜひ参考にしてほしいと思った点です。授業では習わないオリジナルな表現力を皆さん自身でぜひ考えてみて下さい。



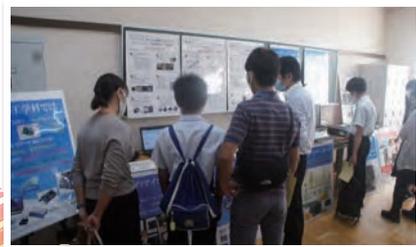
# オープン キャンパス

建築学科 准教授 <sup>かめや えみこ</sup> 亀屋 恵三子

今年度(令和2年度)のオープンキャンパスは、初日は台風の悪天候の中、開催されました。台風の接近のため、開催が危ぶまれ、危惧された方も多かったと思いますが、予定通り開催することができました。

今年は新型コロナウイルス予防の観点から、①事前予約制、②受験対象者に限定した参加、③午前/午後の2部制、④見学場所の制限などに加えて、⑤入り口前での検温や消毒の徹底を行うなど、いつもと異なる厳戒態勢で行われました。

今年の参加者数は1023名(土曜日532名、日曜日491名)で昨年度と比較して200名ほど人数が減少しました。対象を中学校3年生に限定したことや、予約制、コロナウイルスへの対応等が影響したと考えられます。しかしながら、未だオンラインでのオープンキャンパスや開催を見送る大学等もある中で、対面で開催できたことは「大きな一歩」でありました。受験生をはじめ



“生の声”を聞いたこと、中学生や保護者に対して直接説明できる機会ができたことは大きな励みとなりました。

例年同様、本校学生による案内や説明などの活躍が目立ち、各公開場所にお

ける学生の対応について、来場者の方からお褒めの言葉を多く頂戴しました。学生の対応が真摯で丁寧であることで、より深く豊田高専を理解できたとの内容がアンケートに多数記入されていました。教員ではなく、年齢的にも近い学生から直接説明を受けることで、中学生や保護者の方も5年後の姿を重ねやすく、質問もしやすいことが高評価につながったのではないかと思います。案内する学生数も例年より限られたものとなりましたが、それでもなお、豊田高専を正しく伝えられ、実体験をもって知っていただく機会を無事に完了できました。

コロナ禍という受験生にとって厳しい冬を迎えることになりそうですが、これらの結果が今年度の入試倍率にどのような影響を与えるのか、見守っているところです。



## 創造工房棟

### 創造工房棟の計画から竣工までの経緯

建築学科 教授 <sup>いまおか かつや</sup> 今岡 克也

「目標に向かって日々努力する学生に少しでも良い室内環境を提供したい」との発案で、老朽化した流体・熱工学実験棟を解体して、創造工房棟(旧:ものづくり工房棟)を新営する基本設計案が作成されたのは平成26年12月であった。当初の案は、幅25.6m、奥行11mの総2階で、2階はロボカップ競技練習場とデザコン・プロコン等の共同利用室、1階はロボコン競技練習場とエコラン・小規模発電等の共同利用室となっていた。また、建物の東側には情報工学科棟4階まで続く鉄骨階段があり、屋上には歩行通路や屋上庭園も計画されていた。しかし、この企画案



建物の正面

は高専機構の担当者からほとんど評価してもらえなかった。

ところが最近になって、高専機構の予算方針が変更され、従来は55キャンパスにほぼ均



ロボカップ練習試合



授業の風景

等に配分されていた予算の一部を、プロジェクト型に変更し、優れた企画案を提出した高専に予算を配分することになった。このため、創造工房棟の企画案も機構の担当者から再評価され、予算などの関係で、延べ床面積を500㎡以下、2階をアクティブラーニングスペース、1階を共同開発ラボに変更し、鉄骨階段や屋上施設を止めることで実現が可能になった。

そこで、創造工房棟増改築WGが立ち上がり、基本設計は私(今岡)、アクティブラーニングスペースは情報工学科の都築先生、共同開発ラボは機械工学科の田中先生が担当して具体的な実施設計案が検討され、平成31年3月に建物が竣工することができた。

新営された建物は幅19.7m、奥行12.7mの総2階で、一番の特徴は2階のアクティブラーニングスペースの天井高が3.8mと教室より0.8mも高いことである。これにより高い壁を利用したスクリーンがとても見やすくなり、また、ロボカップ競技練習場としても使用されている。

# 豊田高専に入学して

## 寮生活で自分を変える

僕は2か月の寮生活で、自分を変えることができました。中学生の頃、やらなければならないことを後回しにし、自分のやりたいことばかりを優先するという生活をしていました。豊田高専に入学し遠隔授業が始まってからも同じような生活を続けていました。しかし、夏休みに入り入寮ができると分かった時に、今までの生活の仕方ではいけないと思い、目標を立てて寮に入りました。その目標とは、「自分を変える」ことです。堕落しきった自分を、主体的に動く自分へと変えると誓いました。寮生活が始まってからは、チャンスがあったら自ら手を挙げ、挑

いとう ひろき  
機械工学科 1年 伊藤 弘樹  
豊田市立藤岡中学校出身



戦するように心がけるようにしていました。そうしていると、自然と寮生活だけでなく、普段の生活から楽しいと思えるようになってきました。その時、「自分を変えることができた」という嬉しさがこみ上げてきました。

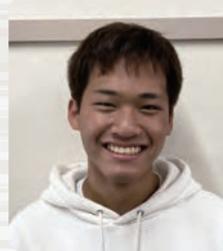
自分とは違うたくさんの仲間刺激されて、自分を変えることができた寮生活には感謝の気持ちでいっぱいです。

このように、自分を変えることができる場所、それが豊田高専の学生寮だと僕は思います。

## NOロボコンNO LIFE

僕は、豊田高専に「ロボコンをしたい！」その一心で入学しました。そして、今はロボコンBに所属しています。ロボコンBに入部した僕は、動画で見ただけだったロボットが目の前にあることに感動し、専門用語が飛び交う先輩方の会話に圧倒されました。全くの初心者で入部したため、この先ついていけるかどうかとても心配になったのを覚えています。しかしその心配はすぐに打ち砕かれました。たとえ分からないことがあっても優しくユーモアがある先輩方が教えてくださったり、「～について調べてみて」というアドバイスをいただけたりするからです。僕は今、回路班に所属しており電子回路や回路設計について勉強しています。まだ分からないことだらけですが、少しずつ勉

にいみ はる  
電気・電子システム工学科 1年 新見 羽琉  
豊田市立崇化館中学校出身



強を積み重ねていくことで徐々に実力がついていることを実感しています。僕の高校生活はロボコンによって、より彩りのあるものになっています。

来年度は回路設計者としてロボット製作に貢献し、この目で国技館の景色を見たいです。そしてロボコンを見ている全ての人に感動を与えたいです。

これをご覧になっているあなたに、大胆かつ繊密に練り出された設計、超高精度の加工、大小様々な電流を自在に操る回路、そして思うままにロボットを制御するプログラミングの結晶である高専ロボコンに少しでも興味を持っていただけたら幸いです。

## 寮生活の楽しさ

コロナウイルス感染症対策の影響もあり、寮に入ってからまだ1か月程しか経っていません。しかし、この短い期間だけでも自身を成長させ、自立の第一歩を踏み出せた気がします。中学校までは、家事をほとんどせず、勉強とゲームを繰り返していましたが、寮ではなかなかそうはいきませんでした。自分で洗濯などをし、勉強の時間をつくらなければならないからです。特に休日は、それに加えてご飯を作らなければいけません。そのため、初めはどうしたらよいのかと不安でいっぱいでした。ですが、同じ階の先輩や友達から寮生活について教わるうちに毎日が楽しくなりました。また、それと同時に今まで料理、洗濯、掃除など全ての家事を行っていた母への感謝の想いが強くなっ

あさい こうき  
情報工学科 1年 浅井 煌生  
春日市立知多中学校出身



ていきました。

さらに、寮では同学科の友達だけでなくいろいろな友達が自然とできます。そのため、部活動や他学科についての話を聞いたり、互いに教え合いながら勉強したりすることもできます。勉強がどんどん好きになり、これは遠隔授業の時には味わうことの出来ない楽しさだと実感しています。

寮は様々な立場の人と共に生活しながら自分をより成長させ、大人への階段を築いていくことができる最高の場所です。これからも全力で寮生活を楽しんでいきたいです。

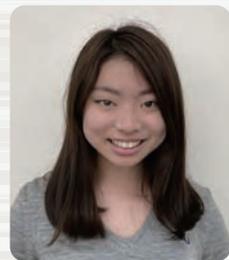
## 新しい挑戦

私は後期から、ソフトテニス部で活動しています。今年は新型コロナウイルスの影響で部活のイメージが思いつかなかったのですが、見学にいかせていただいた時に先輩方の温かく楽しそうな雰囲気に惹かれ入部を決めました。

豊田高専のソフトテニス部は1年生から5年生までおり、先輩や他学科の友達は壁を作らず親切にしてくださいませ。また、テニスコートはオムニコートで丁寧に整備されており、ボールはきれいなものが多く、高校生が出るインターハイに出場できることなど入ってから気付く良いところも沢山ありました。先輩方は男女問わず丁寧に教えてくださり、気軽に話してくださいませ。

中学生の頃は自分でソフトテニス部に入りましたが、途中から

あさの まこ  
環境都市工学科 1年 浅野 茉莉  
名古屋市立神丘中学校出身



練習に受動的になり、初めの頃の楽しさを失ってしまっていました。そのため、高専でソフトテニス部に入ることにはなと思っていましたが、今はソフトテニス部の活動が私の高専生活に彩りを与えています。

今年の1年生女子は5人で、経験者も初心者もいます。今、5人で目指していることは団体で大会に出場することで、現在、みんなで助け合いながら練習に取り組んでいます。部活動は今までの生活に新しい挑戦をさせてくれるもので、私は新しい仲間と目標に向かって後悔のないように精一杯努力していきたいと思

## 好きなことを好きにだけ

豊田高専には数多くの部活動や同好会があります。自由な時間が多い高専生にとって、放課後の過ごし方はとても大切です。その時間を部活動に当てることで、より充実した高専生活を送ることができると私は考えています。

私は女子バスケットボール部と、軽音楽部に所属しています。女子バスケ部では、優しい先輩方に囲まれ、毎日楽しくのびのびと練習しています。高専では、1から5年生までの、年の離れた先輩方と一緒にプレーし、教えてもらうことができます。そのため、技術面だけでなく、勉強面や生活面でも学べることが多く、とても良い環境で部活動を行うことができます。

さらに、高専では、部活動をかけ持ちすることができるため、

いど  
建築学科 1年 井戸 あかり  
豊田市立崇化館中学校出身



私は週に1回程度、クラスの仲間と軽音楽部での活動も行っています。バンドの仲間と一緒に和気あいあいと楽器を弾いたり歌ったりすることが私の日課です。充実した設備と、頼れる先輩方のおかげで、満身に練習できています。

豊田高専には、野球、サッカー、バスケなど活発な運動部から、ロボコンや天文同好会などの高専らしい部活動まで、37種類もの部活動や同好会が存在します。是非、高専で充実したスクールライフを送りましょう。

## 専攻科で変わったこと

専攻科へ入学してからもう1年が経ちました。新しい生活に戸惑いを覚えるはずもなく、5年住み慣れた土地と学校で今までとそんなに変わらない生活がスタートしました。唯一変わったことといえば、新型コロナウイルスの影響で、授業がオンラインになっていたことくらいですが、専攻科生は登校できたので特に変わりありませんでした。

さて、これまでと変わらない学園生活でも変わったことがいくつかあります。まず、1つ目が学年の人数の少なさです。そのおかげで授業が本科と比べレベルが上がり、より詳しい内容となりました。また、学生が3人しか受講しないものもあり、理解できるまで教えていただくことができました。人数が少なくても授業のレベルが変わらないどころか、上げてくださった先生

ごとう こうせい  
電子機械工学専攻 1年 後藤 恒星



には感謝しています。

2つ目に他学科の学生と話す機会が増えたことです。デジタルものづくりカレッジという機械系、電気系、情報系学生と社会人学生を交えて行う授業があり、そのメンバーで協力してモノを作るというものです。これにより他学科の学生と連携をとる機会が増え、話をするようになりました。また、こうしたモノづくりは社会人になってからでないとい体験できないような貴重な経験であり、自身の大きな糧となりました。

このように専攻科には本科とは変わったことがあり、学生にとって大変魅力あるところですね。あと1年という短い時間ですが、多くを学べるように励んでいきたいです。

# 体育祭

体育委員長 機械工学科 4年 くらち ゆいと 藏地 唯斗

今年度の体育祭は新型コロナウイルス感染症が拡大するという前例のない中、無事に開催し、大いに盛り上げることができました。これは全学生が協力して、以下の二つの事を実行して下さったことが大きな要因だと思います。

一つ目に感染症対策の徹底です。私たちは三密を避けることや、アルコールの配置、ビニール手袋の着用等をお願いしました。私たちが声を大きくしてお願いしなくとも、学生のほとんどが自ら感染症対策を行って下さいました。

二つ目に応援合戦です。今年は例年より活動が厳しく制限される上に時間がない中で演技を作成してもらいました。練習する場所も時間も少なく完成度はあまり期待できない状況でした。しかし、どの学科も完成度が高いものができていました。特に団結力においては例年よりはるかに高いものだと思いました。時間があればあるほど団結力が高まると思っていました。ですが、時間がないことによりモチベーションが大きく上がって、団結力が強固になったのではないかと思います。

今年は感染症対策の観点から一番の目玉競技である騎馬戦を行いませんでした。その代わりに女子競技と障害物競走の内容を新しくしたり、新しい競技を作成したりしました。今までと違う競技を行うことはとても不安でした。女子競技と障害物競走においては接触のある部分の内容の変更だったので、今までよりつまらないものを作ってはいけないというプレッシャーがありました。体育委員会の物品のみで行うことは難しいと考え、体育委員とともに小道具を作成しました。その結果簡単すぎず、難しすぎないものを作成することができました。接触等がない上に学生のみみんなが楽しみにしている競技の代わりになるものというものはなかなか考えつきませんでした。そこで、小学校や中学校の体育祭で行った競技を調査しました。そして、体育祭でよく行われるハリケーンとコロナ禍でよく耳にするソーシャルディスタンスとを合わせてソーシャルハリケーンという新

しい競技を作ることができました。名前のインパクトも強く、内容自体も白熱するものにできました。

私は前代未聞の体育祭を無事に運営するというとても貴重な経験をすることができました。また、無事に運営するためにたくさんの人に手助けをしていただきました。体育委員、先生方、そしてなにより参加してくれたすべての学生のみなさんです。私たちはできる限りの感染症対策を行いました。一人一人が意識して下さったおかげで無事に終わることができたと思います。このような学校行事に携われたことをとてもうれしく思います。来年も学生が楽しめる行事が行えることを願います。



プログラム			
1	開会式	6	障害物競走
2	準備体操	7	昼休憩
3	応援合戦	8	ソーシャルハリケーン
4	女子競技	9	学科対抗スウェーデンリレー
5	クラス対抗リレー	10	閉会式

成績	
学科優勝	機械工学科
学科準優勝	環境都市工学科
学科3位	電気・電子システム工学科
クラス優勝	1年情報工学科
クラス準優勝	2年情報工学科
クラス準優勝	1年機械工学科
応援合戦優勝	情報工学科
応援合戦準優勝	機械工学科





# こうよう祭



## Reboooooorn!!

こうよう祭実行委員長 環境都市工学科 4年 しばやま れお 柴山 怜雄

豊田高専の一大行事である、こうよう祭が10月31日(土)、11月1日(日)の2日間かけて行われました。今年は新型コロナウイルスの影響もあり、開催が危ぶまれる中、先生方との話し合いの結果、制限付きの縮小開催となりました。地域の方々や家族、友人や卒業生が参加できないのはとても残念でしたが、天候にも恵まれ、大きな事故やトラブルなく終わることができました。感染症対策として、「校外からの入場者は中学生および保護者のみで、更に入場を事前予約制にする」「校内入り口の数を絞り、全員検温および体調を確認する」「各所に手指消毒用のアルコールを設置し、利用してもらう」「各教室は入場人数を限定し、動線を決めて、密を防ぐ」といった様々なルールを作り、各展示等で工夫してもらいました。

制限付きでありましたが、予想以上の方が来場していただきました。2日間で在校生以外の来場者が1112名にも上りました。当日来場した在校生と保護者の方々、また中学生とその保護者の方には、一人一人ルールを守り、感染対策をしながら楽しんでくださったことに改めて感謝しております。

今年のこうよう祭のテーマは「Reboooooorn!!」でした。この言葉はもちろん「reborn」の生まれ変わると言う意味が元ではありますが、新型コロナウイルスで、常識も生活様式もガラッと変わって今までと同じ祭は出来ないが、みんなで生まれ変わってその中で工夫し楽しもうと言う意味が込められています。このテーマに沿って、コロナ禍で制限がつきながらも、私たち実行委員は制限があることを逆に活かして、工夫できないかと、悩みながらも楽しんで活動して来ました。

今年度のこうよう祭は目玉企画としてスタンプラリーを行いました。各展示をまわってスタンプを集め、ガラガラの抽選を行うというもので、特賞には商品券1万円分を2つ用意しました。今年度は両方とも本校学生が当選しました。2日間でスタンプラリーに参加してくださった方々は900人弱のぼ

り、人が来なくてガラーンとしてしまうのではないかという不安も打ち砕くほど、大変盛り上がりました。抽選の参加者の中にはすぐ帰る予定だったが、せっかくスタンプラリーがあるからと予定外の教室を回り、思いがけず楽しかったと言う声もありました。

更に、今年度の新しい取り組みとして、私たちは以前からの「校内が複雑な構造でわかりづらすぎる」という大きな課題を解決するため、順路を含めた青い看板を設置しました。初めて来場した方にもシンプルでわかりやすくなるよう何度も試作を重ね作成しました。結果、案内の道順通り歩くと、くまなく見て回ることができたという意見もあり、例年のアンケートに書かれるような校内地図が分かりにくかったと言う声は聞かれませんでした。

コロナ禍という非常事態で、これほどまでに多くの方に参加していただいた上、無事に終わることができて本当にホッとしています。4年生の学科展示、2年生のクラス展示、建築学科3年生が製作したゲート、部活動や同好会による有志展示は制約の中での企画にもかかわらずどれも素晴らしいものばかりで、豊田高専の技術力の高さに大変驚かされました。

これは一緒に活動してくれた幹部、各パートリーダー、協力してくださった先生方、そして全ての実行委員のみんなに、感謝の言葉を伝えたいです。ありがとうございました!

今年のこうよう祭は初めてのことでただで色々なことが不完全だったかもしれませんが、何かを作り上げていく上で多くの制約があり、その中で話し合い、様々なリスクを予想し、対策をし、全ての方に協力を仰いでいくプロセスは私たちがコロナ後の世界を生きていく上で必要な経験だったのではないかと思います。今年出た反省点や改善点を、来年以降のこうよう祭で活かして欲しいと思います。また、新型コロナウイルスが一刻も早く収束して、元通りの伝統的なこうよう祭に戻れることを願っています。





## ・コミュニケーションと留学

すずき がくう  
建築学科 2年 **鈴木 楽空**  
留学先 ドイツ

私は昔からヨーロッパへ留学に行きたいと考えており、ついに行くことができました。

私はドイツのカッセルとハノーファーという街で7ヶ月間過ごしました。私の家族はみんなとても優しく、日本の事にも興味を持ってくれました。学校の友達も同じように優しく、すぐになかよくなれました。

私は、英語は少し、ドイツ語に関してはほとんどわからないまま留学へ行きました。おそらく多くの方が留学への不安の一つに言語を挙げると思います。しかし、私はこの7ヶ月を通してそれ以上にコミュニケーションを取りに行く積極性が大切だと感じました。ドイツ語はホスト



クラスの友達

ファミリーや友達、街で出会う人たちとの交流を通して身に付きまして、カタコトのドイツ語で話していても現地の人たちは一生懸命に理解しようとしてくれました。そして私も相手のこと、相手が何を伝えようとしているかを必死に理解しようと思いました。そうすることで、言語が不十分でもコミュニケーションを取ることができましたし、そのやりとりを通してその人との関わりも増え、また一人また一人と友達が増えていきました。

留学中は様々な不満や納得できないこともありましたが、少し謙虚になるだけで見えていなかった人の良さが見えるようになりました。



2軒のホストファミリー

## ・第二の故郷

いぬづか みちこ  
電気・電子システム工学科 3年 **犬塚 通子**  
留学先 フィリピン

私は父のフィリピンでの単身赴任がきっかけで、フィリピンへの留学を決めました。

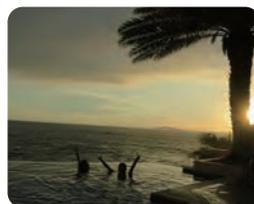
フィリピンではキリスト教が篤く信仰されており、毎週日曜日に教会へ行ったり、授業ではキリスト教に関するものがあつたりしま



毎週日曜日に行っていた教会

した。また、クリスマスには親戚で盛大にパーティーを行うなど日本ではできない経験をすることができました。

そんな留学生活の中で一番印象的だったことは、授業の一環で貧しい村へ行ったことです。そこは電気もガスも通っていませんでした。しかし、その村の人々は、笑顔で過ごしていました。



ホストファミリーとの海旅行



フィリピンでできた友達

特に子供たちは、鬼ごっこをするなど楽しそうでした。この経験を通して、私は今まで自分が見てきたことがすべてではないことを学び、考え方や視野を広げることができました。

留学生活では、楽しいことばかりではなく、言語やホームシックといった壁にぶつかることもありました。しかし、一つ一つ乗り越えることで、自分の成長へとつなげることができました。このように、多くのことを学び、経験し、濃い時間を過ごすことのできたフィリピンは私の第二の故郷です。



## ・「自分とは」に向き合った8ヶ月

おおしま えみり  
建築学科 3年 **大島 英美里**  
留学先 フィンランド

教育先進国、幸福度ランキング1位、ムーミンとサウナの国。そこに住む人々は自然をこよなく愛し、シャイだけど心の温かい人達です。自立心や自主性が強く、学校には制服も校則もありません。ただし、冬の暗さと長さには驚きました。あまりの暗さに生きる力が吸い取られるようでした。

特に11月(marraskuu:現地語で死の月)は、圧倒的な自然を前に意気消沈していました。しかし、同時に自然に生かされているという事を深く理解する事ができました。肌の感覚を研ぎ澄まし、微かな太陽からの熱を感じた事や、海辺に固有の風や音に心を預けた事、学校が終わるなり家よりも先に「森に還った」日々はいい思い出です。

移ろう季節を共に過ごす中で、フィンランド人の気質や人間性がとても自然なものに感じられ、彼らの人格の根本にあるものを理解した感覚がありました。そして、彼らと自分を客観的に

## ● 貴重な留学経験で学んだこと

情報工学科 3年 <sup>かわい しゅうや</sup> 河合 柊哉  
留学先 デンマーク

私は世界一幸せな国と呼ばれている国の暮らしを体験してみたいという理由で、北欧のデンマークに留学していました。

クリスマスの時には自宅から歩いて自分たちで家に飾るクリスマスツリーを取りに行ったり、休みの日は池に釣りに行ったり、



留学生との集合写真

現地の友達やほかの留学生たちと出かけたりして楽しく充実した生活を送ることができました。

しかし、その充実した生活を送るまでには辛い時期もありました。留学が始まった時、私は英語もデンマーク語もほとんど何もわからない状況でした。その状態での留学生活はとても辛かったです。ホストファミリーや学校の人が話しかけてきてくれるのにうまく話すことができず、うまく話せなかったという経験から人と話すことを怖がるようになってしまいました。しかし、毎日諦めずに言語の勉強を家や学校で続けた結果、だんだん人との会話を楽しいと感じるようになり、自分から人に話しかけられるようになりました。そのおかげで交友関係も広がり、留学生活が楽しいものへと変化していきました。

この経験から私は諦めずに継続することの大切さを学びました。これからの生活でも実践していきます。



ホストファミリーとの写真

## ● 留学で得たもの

環境都市工学科 3年 <sup>ふかつ たくろう</sup> 深津 拓朗  
留学先 アメリカ

英語が話せたらかっていい。そんな浅はかな理由で僕はアメリカへ留学することに決めました。僕はニューメキシコ州のアルバカーキという砂漠に囲まれた街に派遣され、ホームステイではなく学校に併設された寮で生活することになっていました。学校の寮にはアメリカ人のほかにヨーロッパやアフリカなど様々な国籍の学生が住んでいたため、アメリカだけでなく様々な国の文化を知るとても良い機会になりました。また、週末には



寮のルームメイト

毎週寮のアクティビティがあり、寮の仲間と地元の様々な観光名所に行ったり、イベントなどに参加したりしました。アメリカに住んでいる人たちは日本人とは異なる

り、良い意味でも悪い意味でも人の目をあまり気にしていないので、お互いの意見の食い違いから寮では言い合いになることが多々あり大変でした。しかし、ただ人の意見に流されるのではなく自分の意見をしっかり持ち、自分の意思を相手に伝えることの大切さを感じることができました。また、僕はアメリカに行く前に漠然とアメリカ人は冷たいと思っていましたが、実際はそんなことはなく勉強を教えてくれたり遊びに誘ってくれたり温かい人がとても多いと感じました。そんな人たちに囲まれて、「心」も「体」も一周り大きく成長することができました。



同じ寮に住んでいた留学生との写真



学校の体育祭

見つめる中で、自分という存在が確かなものになりました。

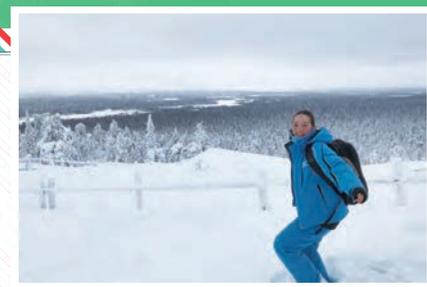
不完全な自分を受け入れ、等身大である事。1日の中で、自分を労る時間を必ず作る事。自然の小さな変化に目を向けてみる事。忙しい毎日に飲み込まれないよう意識して穏やかに過ごす事が、フィンランドでの経験を通して今の生活に活かせる事だと感じています。



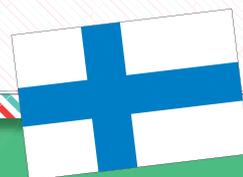
光の祭り、聖ルチアの日



ある夏の日の寄り道



-24℃の北極圏で



# 学生会だより

## 令和2年度役員(退任のあいさつ)

### 会長

建築学科 4年 すずき ほると 鈴木 陽登

コロナの影響で約半年が削れてしまった1年間でしたが、各役員の柔軟な対応と行事への取り組みによって乗り切ることができました。このメンバーで活動ができて僕は幸せです。ありがとうございました。

### 副会長

環境都市工学科 3年 のむら こうすけ 野村 康輔

例年とは大きく違った1年となりましたが、状況を活かした発想・行動により、学生会として一歩前進でき、また自身の成長にも繋がったと思います。1年間ありがとうございました。

### 副会長

情報工学科 3年 ささやま らいが 笹山 雷雅

初年でいきなり副会長という大役を務めさせていただきましたが、同じ学生会メンバーや教員の方たちに支えてもらってなんとかやり切ることができました。ありがとうございました。

### 一般会計

建築学科 4年 すずき とうや 鈴木 統也

1年間、学生会一般会計での活動を通じて、痛いほど自分の未熟さを実感すると共に、成長に繋がりました。また、教員の方々や学生会執行部員のお力添えもあり、無事やり切ることができました。ありがとうございました。



### 広報

環境都市工学科 3年 いらいし しょうた 稲石 翔太

初めての学生会で、自分自身至らない点も多くありましたが、広報として様々なことを学ばせていただきました。1年間ありがとうございました。

### 書記

情報工学科 5年 かわはら たくま 川原 拓真

振り返ればこんなオタクでも3年間学生会やれた(?)という驚きの事実。色々な経験を積ませていただき、学ぶことも多くありました。お世話になった方々、ありがとうございました。P.S.行事には参加してね!

### 書記

建築学科 3年 すぎやま まゆ 杉山 真悠

1年間、学生会の活動を通して自分に不足する部分を痛感しました。その中で沢山の事を学ばせて頂き、自分にとって大きな成長となりました。ありがとうございました。

### 内務

建築学科 3年 くした はな 櫛田 花那

1年間、学生会内務として務めさせて頂きました。活動から様々なことを学ぶことができました。お世話になった方々、ありがとうございました。

## 令和3年度役員(新任のあいさつ)

### 会長

環境都市工学科 3年 のむら こうすけ 野村 康輔

多彩な経験を活かしながら、会長として、新しい学生会を導き、支えていき、皆が心から笑える世界線を創りあげていきます。ご期待ください。

### 副会長

情報工学科 3年 ささやま らいが 笹山 雷雅

前年度に引き続き副会長として運営をしつつ、会長や新メンバーのサポートができるよう努めていきます。よろしくをお願いします。

### 副会長

環境都市工学科 3年 いらいし しょうた 稲石 翔太

昨年度から続き、二回目の学生会です!副会長として会長のサポートをするだけでなく、執行部全体を支えたいです!よろしくをお願いします!

### 一般会計

情報工学科 2年 おおしま なつき 大島 菜月

執行部の経験はありませんが、職務を円滑に行い、無駄をなるべく省けるように頑張ります!

### 広報

建築学科 4年 すずき ほると 鈴木 陽登

広報の仕事はもちろんのこと、学生会メンバーのサポートを徹底します。最後の1年悔いの残らないよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いします。



### 書記

情報工学科 2年 なか たいし 仲 泰志

執行部は初めての経験ですが、先輩方の補佐など含め、学生会がより円滑な活動を行えるよう尽力します。よろしくをお願いします!

### 書記

機械工学科 1年 いとう ひろき 伊藤 弘樹

自分が経験してきたことを存分に発揮して、皆さんにより興味を持っていただけるような学生会活動を目指します! よろしくをお願いします!

### 内務

機械工学科 1年 やまもと りょうた 山本 涼太

まだ豊田高専に入って1年しか経っていませんが、自分の仕事だけでなく他の人の仕事の手伝いなど全ての仕事を全力で頑張ります! よろしくをお願いします!

## 令和2年度寮生会 退任のあいさつ

**寮長** 機械工学科 5年 鈴木 日向 すずき ひゅうが

1年間寮長を務めさせていただきました、鈴木日向です。未曾有の出来事によりイレギュラーな1年となりましたが、多くの学生や教員方の協力を得て無事に寮を開けることができ、大変うれしく思います。同時に、今までの寮生活がいかに魅力的だったかを改めて学ぶことができ、貴重な経験になりました。この特別な年に寮長を務めさせていただいたことを誇りに思いつつ、今後の寮がより良いものになることを心から祈っています。ありがとうございました。

**副寮長** 建築学科 5年 佐野 泰洋 さの やすひろ

今年度、副寮長を務めました5年建築学科佐野泰洋です。私は昨年度も副寮長を務め2年間寮生会メンバーとして寮運営に携わってきました。今年度は新型コロナウイルス感染症により、今までと異なる寮運営を実施することとなり多くの苦労をしました。しかし、2年目なので、様々な場面でのサポートを積極的に実施しスムーズな寮運営に貢献することが出来たと感じています。今までありがとうございました。今後の豊田高専の寮の発展を祈念しています。

**副寮長** 機械工学科 4年 前田 雄祐 まえだ ゆうすけ

今年度副寮長を務めて様々な経験をし、寮運営に携わらせて頂きました。役員会や運営会議など様々な場を通して、成長することができました。また、豊田高専の学寮の良さ、誇りを改めて感じることができました。本当に充実した1年間を過ごすことができました。ありがとうございました。来年度も頑張ります。



**副寮長** 電気・電子システム工学科 4年 藤田 昂大 ふじた こうだい

今年度副寮長を務めさせていただきましたありがとうございます。寮祭がなくなるなど感染症の影響で例年とは大きく変更もありましたが会計の仕事や役員会や運営委員会などを通して大きく成長できました。ありがとうございました。

**副寮長** 電気・電子システム工学科 4年 成田 琴美 なりた ことみ

副寮長を務めさせていただき、ありがとうございました。今年度は、新型コロナウイルスの影響で任期が半年となりました。しかしその中でも、新ルールの設定と改善、感染対策を徹底したイベント活動や集会の運営、それらに関わる学生と先生方の動き方などを実際に体験し、刺激的な半年間となりました。来年度以降、感染を抑えながらさらに寮生同士の交流が活発になることを願っています。

## 令和3年度寮生会 新任のあいさつ

**寮長** 電気・電子システム工学科 4年 藤田 昂大 ふじた こうだい

この度寮長を務めさせていただきます藤田昂大です。昨年度は新型コロナウイルスの影響もあり、寮祭などの寮の伝統行事を行うことができませんでした。まだまだ予断を許さない状況下ではありますが、日頃から感染症対策を徹底し、寮生会役員や先生方とも協力しながら今までの伝統を途絶えさせないように尽力します。最後の寮生活で後悔の残らないよう寮長として責任を持って仕事を全うしていきたいと思います。1年間よろしくお願いします。

**副寮長** 機械工学科 4年 前田 雄祐 まえだ ゆうすけ

令和2年度に引き続き令和3年度も副寮長を務めさせていただきます前田雄祐です。前年度で得た知識や経験を活かし、豊田高専寮を支えていきます。また、寮長の仕事の負担を軽減するためにサポートすることや、最高学年として今後の寮の先頭に立つことになる後輩を育てる副寮長になります。そして、閉寮して前年度できなかった新たなことにも挑戦していきたいと思います。1年間よろしくお願いします。

**副寮長** 環境都市工学科 4年 大石 萌 おおいし もえ

今回、副寮長に就任しました大石萌です。来年度から最高学年ということもあり他のメンバーと共に寮生がより良い寮生活を送れるように沢山アイデアを出したいと思います。1年間よろしくお願いします。



**副寮長** 機械工学科 3年 田中 智彰 たなか ともあき

この度副寮長を務めさせていただきます、3年機械工学科の田中智彰です。今年度は班長を経験し、寮の魅力に改めて気付くことができました。この魅力を発信していくとともに、交流会を通して他高専の寮の良いところを積極的に取り入れることで、この寮のさらなる改善に努めていきます。皆さんにとってより過ごしやすい寮を目指し、精一杯頑張ります。1年間よろしくお願いします。

**副寮長** 機械工学科 3年 小田 修造 おだ しゅうぞう

この度副寮長を務めさせていただくことになりました3年機械工学科の小田修造です。寮生会の一人として周り協力しい寮の環境改善に努めたいと思います。未熟ではありますが暖かい応援をよろしくお願いします。

# 卒業生メッセージ



## Q1 ▶ 高専生活で最も印象に残ったことは何ですか。

こうよう祭です。私は4年生の時に、学科展の展示代表を務めました。ただ技術力をみせるのではなく、誰でも楽しめる展示にすることを目標に、クラス全体で作る学科展を目指しました。その結果、クラスメイトの機転や発想、努力が詰まった展示ができ、当日もそれぞれの個性を生かして、来場者を楽しませることができました。

協力は考えの幅を広げ、とても大きな結果を生み出せることを実感しました。

## Q2 ▶ 在校生に伝えたいメッセージをお願いします。

後悔しないでください。反省は将来のために大切ですが、後悔は何も生みません。

試験や就職、受験などで後悔することがあると思います。しかし、過去の行動はその時の自分がすべきだと判断したことです。その時の自分を否定せず、それを次に生かすことを考えると良いと思います。



## Q3 ▶ これからの抱負を聞かせてください。

卒業後は進学して、高専ではできなかった新しい経験をしていこうと思います。どんな経験でも何が役に立つかは分からないので、自らで考え、行動し、実りある生活を送りたいと思います。



## Q1 ▶ 高専生活で最も印象に残ったことは何ですか。

部活動です。私は弓道部と茶道部に所属していました。弓道部では、毎日部活に参加してコツコツ練習を重ねました。高専大会は2年生から3年間出場しました。弓道はチーム戦なので、低学年の時は先輩方へ迷惑をかけないように、また高学年になってからは後輩たちがなるべく楽ができるように心掛けて大会に臨みました。初めて入賞することができた時はとても嬉しかったですが、学年が上がるにつれて入賞なくてはいけないというプレッシャーになっていきました。しかし、そんな私を支えてくれたのは部活のメンバーでした。困っていることがあったらすぐにアドバイスをくれたり、不安で押し潰れそうになったら声をかけてくれて気を紛らわそうとしてくれたりと献身的に支えてくれました。そのおかげで私は全国大会に毎回出場することができ、団体戦、個人戦ともに毎回入賞することができました。

## Q2 ▶ 在校生に伝えたいメッセージをお願いします。

何か一つでもいいので継続してみてください。高専生は高校生や大学生に比べて長い時間を同じ環境で過ごします。それでも、私は5年間という時間はやりたいことを全てするには



短いように感じます。この限られた時間の中で興味を持っていることをひとつでも多くのことにチャレンジすることは素晴らしいことだと思います。そのチャレンジと並行して時間をかけて何か一つ時間をかけて成し遂げようとしたとき、時間をかけないと見えてこない苦労にぶつかると思います。辞めたいと思うかもしれませんが、それを乗り越えて継続できたということは、それ自体が自信に繋がると思います。将来困難にぶつかったときでも継続できたという経験が役に立つと思います。

## Q3 ▶ これからの抱負を聞かせてください。

私は来年4月から社会人になります。今まで生きてきた時間より長い時間を企業で過ごします。まずは仕事に慣れることが重要だと思います。それと同時に上司や同期とも良い関係を築いていきたいです。数年後には職場でいなくてはならない人になれるように精進していきます。



### Q1▶ 高専生活で最も印象に残ったことは何ですか。

高専生活で一番印象に残っていることは、様々なコンテストに参加したこと。きっかけは2年生のときに先輩に誘ってもらって出た高専プロコンで、そこでたくさんの人と出会い、プログラミングの楽しさや、コンテストでの苦悩と達成感を味わいました。それから校内外のコンテストやイベントに参加し、時には賞をいただけることもありました。もちろん、コンテストによってプログラミングの技術が向上し、知識が深くなっていきましたが、それによって得た一番大きなものは「人との繋がり」でした。他高専の人や他高専OB/OG、ときには高専に関係のない企業の方など、たくさんの方と知り合い、そしてその縁がさらに他の繋がりのおかげになりました。高専生活は良いことばかりでなく辛いことや苦しいこともありましたが、この繋がりが自分を助けてくれました。

### Q2▶ 在校生に伝えたいメッセージをお願いします。

在校生に伝えたいメッセージは、まず、高専にいるということを活かし、今しかできないことに全力で取り組んでほしいということ

情報工学科 5年

やまもと けんや

山元 賢也



です。それはコンテストのような特別なことでなくてもいいです。勉強でも部活でもそれに全力で取り組むことで、きっと様々な人がその努力を認め、繋がりができていきます。またその繋がりを大切にしてください。それは同級生かもしれないし後輩かもしれないし先輩、はたまた全然関係ない人かもしれない。そういった人に真摯に接することで、巡り巡って自分を助けてくれるはずですよ。

### Q3▶ これからの抱負を聞かせてください。

4月から東京のIT企業に就職します。自分は少し特殊な就活をしたので、これからの後輩がそういった就活をしたいとなったときの良き前例となれるように精進し、後輩が胸を張って誇れる先輩でありたいと思います。

### Q1▶ 高専生活で最も印象に残ったことは何ですか。

私は留学含めて合計6年間に在学していましたが、間違いなく濃密で有意義な6年間でした。寮生活や部活、辛かった勉強も今では貴重な思い出として美化されていますが、中でも最も印象に残っていることはドイツ留学です。10か月間のドイツ留学では、語学力の向上はもちろんのこと、多種多様な価値観や文化、習慣を学ぶことで、客観的に自分自身を見つめ直すことができました。“豊田高専でよかった”と思う気持ちが年を重ねるごとに増していくような学校生活でした。

### Q2▶ 在校生に伝えたいメッセージをお願いします。

前述しました“豊田高専でよかった”と思えるような経験をここでは“高専生の特権”と呼ばせてください。私が考える高専生の特権とは、5学年に及ぶ縦のつながり、早い段階での専門分野学習、自由度の高さ、寮生活、留学、大学編入など様々です。これはその人次第で捉え方が異なると思います。ただ重要なのは、これら高専生の特権をいかに利用できるかだと思います。「普通高校に行っていれば

環境都市工学科 5年

まつおか はるき

松岡 陽生



ば・・・できた」だとか過去の自分の選択を悔やむ時間があるなら、「高専だからこそ・・・できる」と逆に高専でしかできないことを探し、それに対して時間を注いだほうがよっぽど充実した学校生活を送れるはずですよ。ぜひ“高専生の特権”を濫用しまくってください。

### Q3▶ これからの抱負を聞かせてください。

私は4月からは大学へ進学します。大学では自分の興味のある学問のさらなる追求に加えて、高専で学んだことを踏まえつつ、次は“大学でしかできないこと”に時間を注いでいこうと思います。

改めて、6年間で出会った仲間、先生方、豊田高専で関わって下さった全ての方々、本当にお世話になりました。ありがとうございました！

### Q1▶ 高専生活で最も印象に残ったことは何ですか。

5年間の寮生活です。私は、3～5年生で指導学生として過ごしてきた3年間に特に印象に残っています。豊田高専の学生寮は他高専と比較して学生が主体となって運営しています。これは指導学生が自分の持つ役割に責任を持っているからこそ、円滑に進められていることです。指導学生は名の通り、一般寮生を指導する立場です。私自身、3年間の経験で他人を指導するためのスキルを身に付け、自分自身を客観的にみることが出来るようになりました。また、一寮生として、相談に乗ったり遊んだりする何気ない日常も楽しく送ることもできました。これだけ多くの経験が出来る学生寮に住んで良かったと心から思っています。規模の大きな豊田高専の寮だからこそ得られた経験だと思います。

### Q2▶ 在校生に伝えたいメッセージをお願いします。

一度始めたらあきらめずに継続することを意識してみてください。私は、5年間の高専生活で継続することの大切さを学びました。経験や知識を積むことは簡単ではなくとても苦勞しますが、諦めて放棄することは簡単です。しかし、一度諦めてしまったことをもとのレベルに戻すことは今まで以上の苦勞が必

建築学科 5年

さの やすひろ

佐野 泰洋



要です。授業の数や課題が増え、苦しくなる時期もあると思います。その時は、今まで努力してきた自分を思い出してください。どうしても苦しかったら手を少し抜いてみることも大切だと思います。でも、決して諦めないでください。結果は必ず付いてきます。皆さんの事を応援しています。

### Q3▶ これからの抱負を聞かせてください。

4月からは社会人になります。大きな組織に所属することになるので、自分の立ち位置を確立して会社に貢献していきたいと考えています。高専で様々なことを学んできましたが、会社に入ってから学ぶこともたくさんあると思います。もう一度初心を忘れずに学生時代に努力してきた経験を活かしていきたいです。

# 修了生メッセージ

## 目標に向かって

豊田高専に入学してからはや7年が過ぎましたが、楽しい思いも辛い思いも含めて、すべてがこれまでの自分を作り上げたと感じます。「社会に貢献できるエンジニアになる」ことを志して本科に入学して以来、それまでとは全く異なる環境の高専生活が始まりました。寮生活や勉強など、全てが新鮮でした。専攻科へは、より専門的なことを学びたいという思いから進学を決めました。

専攻科入学後は、これまで培った知識や技術を用いて、企業の方や他学科の学生と協力して一貫したモノづくりを行う「ものづくり一気通観プログラム」に参加し、本科5年次から続けてきた衝撃波の特別研究を進めました。専攻科は本科に比べて自由な時間が多いと感じます。私は専攻科に進学して自分の将来について考えることが多くなりました。今まで漠然とした夢や目標はありましたが、それらを達成するには何が必要で、どうしたら達成に近づけるのかを考えることは

電子機械工学専攻 2年 くろやなぎ けん 黒柳 賢人



少なかったです。しっかりとした目標を立てることが出来れば、それに向かって自然と集中できると感じました。大切なのは目標を立てること自体ではなく、それを達成するために具体的な方法を考える、何が最善なのかを考えることだと思います。

私は、先生方や友人を始めとした周囲の環境に恵まれたことで、7年間の学校生活を通じて自分自身を成長させることが出来ました。中学生の時に高専を選んで良かったと、心から思います。来年度からは大学院に進学しますが、今後も「社会に貢献できるエンジニアになる」という目標を達成するために精進したいと思っています。

最後になりましたが、これまで支えてくださった全ての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 経験と学びに富んだ7年間

高専本科入学当時、自分が7年間もこの学校に通うことになるとは想像もしていませんでした。改築や建て替えなどにより校内の景色が入学当初から大きく変化して、時の流れを感じる一方で自分にとっての7年間はあっという間で、多くの学びと様々な経験を得られた有意義な時間でした。

自分が専攻科に進学したのは、研究活動や教育課程において地域や企業とのつながりを生かした活動が行えるからです。本科5年次の卒業研究にて経験した産学官連携共同研究で生まれたつながりを活かし、専攻科における研究活動でも互いの技術を共有できたとともに、この地域の産業界における現場の声や要望を直接聞けたことは、非常に貴重な経験でした。

充実した高専7年間の中でも、「自分に合った学び方」を得られたのが自分にとっての大きな成果でした。本科課程における専門科目の学習に高校生向けの参考書は使えません。

電子機械工学専攻 2年 おだなか あきと 小田中 秋人



先生方の手厚い補助はありますが、講義で得た知識を補うためには自学自習が必要となります。参考書籍や情報源を探して、内容を自分なりにかみ砕き理解する。こうした取り組みを日常的に行う環境があったことで、自分に合った学び方を確立することができたと考えています。今後の社会人生活でも、学びを大切に日々を過ごしていきたいと思っています。在学生の皆さん、新しい事柄に挑戦する際にも、1つのことを極める際にも、学びは常に必要となります。ぜひ、日々の学びを大切に有意義な高専生活を送ってください。

高専生活を支えてくださった教職員の皆様、研究活動を通じてお世話になった皆様、学友諸氏、そして家族には大変感謝しております。ありがとうございました。

## 成長の7年間

広報は初投稿です。豊田高専に入学して本科5年と専攻科2年を過ごし、卒業を迎えることとなりました。小学校よりも長く在籍していたことを考えると、感慨深いものがあります。この7年間で得られた経験は、豊田高専でなければ得られなかったものだと思います。

本科では、主に情報工学の基礎的なことについて学びました。特に印象に残っているのは、国家資格である基本情報技術者試験を4年次に受験し、合格したことです。試験で出題される問題は日々の授業で学んだことが多く、学んだことを活かしている実感がわきました。専攻科に進学してからは、授業や研究で発表を行う機会が増えたことが印象的でした。“ものづくり一気通観”の授業では、企業の方と共にシステムの設計・製作・動作テストを行い、諸々をまとめて発表を行いました。研究では、学会でのポスター発表や大学の方とのミーティングにて進捗発表を行いました。発

情報科学専攻 2年 かんどり たいき 神取 大貴



表のための資料作成など大変なことは多かったです。貴重な経験ができました。

私は、競技プログラミングコンテストに提出されたソースコードの分析をする研究をしています。分析に際して、必要となるデータを収集するための手法の検討や、収集プログラムの作成・実行、分析手法の検討、分析の実行といった、多くのことを専攻科での2年間をかけて行いました。しかしながら、専攻科での2年間はあっという間に過ぎていったように感じます。これから専攻科へと進学する後輩の方々におかれましては、日々の研究を大切に進めていければと思っています。

最後になりますが、教職員の方々、クラスメート、同研究室の後輩には大変感謝しております。ありがとうございました。

## 成長の2年間

専攻科の入学式から早いもので2年が経ち、修了の日を迎えることができました。2年間を振り返ると、忙しくも充実した学生生活を送ることができたと思います。

本科での私は、学業に熱心に取り組まず、楽な方へ逃げたばかりでした。進路を決める際も、今更勉強を頑張っても仕方がないと決めつけ、努力や挑戦をしませんでした。そんな私が唯一頑張りたいと思っていたのが研究活動でした。本科卒業後も研究センターの学生生活を続けたいという思いから専攻科への進学を決めました。

専攻科入学後は、今までできないと諦めていたこと、やりたくないと感じてきたこと、やってみたかったことなどに挑戦し続けました。長期インターンシップや専門科目の復習、資格・試験勉強などを研究活動と両立させながら取り組むことができたのは、専攻科という環境だったからだと思います。

建設工学専攻 2年 しみず ちえ 清水 千江



また、専攻科では自身の進路を考える機会や時間を設けることができ、十分な準備・対策期間を確保することができました。今年度はコロナ禍ということもあり、試験勉強や対策が思うようになかった時もありましたが、先生方や先輩方のお力添え、同級生の協力により、念願だった大学院に合格することができました。専攻科での学生生活を経て、勉強面、研究面、精神面といった様々な面で成長することができたと思います。専攻科生活に悔いはありませんが、今は大学院へ行ってからやりたいこと、挑戦したいことがあります。これからも挑戦し続けることを忘れず、努力していきたいです。

最後になりましたが、環境都市工学科の先生方をはじめ、ご指導くださった先生方、教職員の皆様に心より感謝申し上げます。7年間ありがとうございました。

## 主体的な学習の場

私は、家族からの勧めと、兄が豊田高専に進学していたことに影響されて高専に入学しました。入学は情報工学科でしたが、本科2年で建築学科へ転科して本科と専攻科の6年間建築を学びました。そして、自分の希望した分野の職へ進むことができました。

専攻科と本科で大きく違う点は、主体的な学びがより一層求められる点にあると思います。講義では、テスト以外にレポートや発表といったアウトプットの場が全ての科目で設けられ、講義で学んだ内容を踏まえて自分で調査や考察をすることが求められます。特に発表は、伝える上でどこが重要な情報か、どうすればわかりやすい資料を作れるかを考えて実践することで、発表の力がついたと思います。これまで以上に内容への理解も深まりました。

建設工学専攻 2年 やまもと こうじ 山本 康二



他の特徴として、自由な時間が多いことです。研究や自分の学びたい分野の学習時間等に費やすことで自分の成長につながりました。専攻科で自分と向き合う時間を十分に取ることで、自分の進みたい道を明確に定め、他の人よりゆっくりとではありますが自分の将来のための学習ができました。特に専攻科1年で2つの建築コンペに応募して、そのうちの一つで賞をいただけたことは私にとって目に見える大きな成果だったと思います。

最後になりますが、ご指導いただいた先生や職員の方々、支えてくれた家族や友人には大変感謝しています。ありがとうございました。

### 諦めるのはまだ

建築学科 5年 Tsogtbayar Barsbold (ツォグトバヤル バルスボルド)

最近考えるのことは、人生はどんなに辛くても苦しくても諦めていない限り選択肢があるということです。10ヶ月前に自分の憧れの選手が亡くなりました。その人と一度も会って握手したことがないままで、それは本当に言葉で表せないぐらい辛いことのように感じました。子供の頃からその選手のプレイを何度も何度も見て、どういう風に動いているのかをしっかりと記憶してきました。私が高校生になった頃、その選手についてのドキュメンタリー番組が配信され、それを見てから再び憧れの存在になりました。そのような人物がいるのかととても驚きました。なぜなら、その選手は普通の人間ではないように見えたからです。彼には大きい体、速い脚、ジャンプ力の全てが備えられています。全てにおいて普通の選手並みの能力でした。しかし、他の選手と違って、彼は人より何倍も努力することができました。いわゆる努力の天才でした。いくら才能がなくても、努力し続ければいつかチャンスがやってくるのが現実と感じました。「毎日練習することが習慣になって、何年も続けている。誰かが何日かかけて頑張っても俺に勝てない。なぜなら、俺とその誰かの差が、その時には既に何十年かになっているからだ」とインタビュー中で言っていました。

だからいくらできなくても、私に才能がないと思っても、諦めずにもう一回頑張っ、努力してみたいかでしょうか。



### 人生を楽しむ

建築学科 5年 Dashzevge Bayarjavkhlan (ダシゼブゲ バヤルジャブハラ)

豊田高専建築学科のパーズです。モンゴルから来ました。もう日本に来て4年が経ちました。最初は母国、家族、友達から離れて大変でした。言語もよく話せない国で一人暮らしするのは意外に難しく感じました。でも、時間が経つにつれて慣れていきました。基本的には一人で生活しなければならぬのでお金の使い方を考えたり料理を作ったりと大変ですが、その反面、楽しいこともたくさんありました。例えば一人なので、好きなことを見つけて、好きな時にやることができます。一人暮らしを始めてからわかったことは、人生は自分のものだから好きなことをして自分を愛することが大事だということです。今の自分が好きではなく、楽しくないならば、やっていることや自分がある環境を変えれば良いのです。自分が楽しいと感じている人は、他の人をも楽しくすることができます。楽しい人達は楽しい環境を作ることができます。自分の人生を楽しむ人が増えれば、この世界をもっと楽しくできます。皆さんで人生や世の中を楽しんでいきましょう。



## 入学メッセージ

### これから2年間の思い

機械工学科 3年 Bold Margad (ボルド マルガド)

こんにちは。私は機械工学科の3年生のマルです。モンゴルから来ました。豊田高専に入学する前に日本語学校に通っていました。東京で過ごした1年間は私にとって有意義なものでした。いろいろな国の友達ができ仲良くしたり、日本の生活と文化に触れたり、新しいことをたくさん知ることができたことは非常に楽しい経験でした。一方、大変な思いをしたこともありました。新型コロナウイルスの影響でモンゴルに帰国できず、前学期の5ヶ月間は学寮で一人暮らしをしなければなりませんでした。

これから2年間、新しい友達を作り、機械工学の勉強をし、豊田高専を卒業したいと思います。そして、日本の大学に進学するつもりです。よろしく願います。



### 頑張りましょう

情報工学科 3年 Buyantogtokh Itgel (ボヤントクトフ イトゲル)

こんにちは。豊田高専情報工学科3年生のイトゲルです。モンゴルという中央アジアの国から来ました。日本には2020年の3月末に来る予定でしたが、世界全体で大流行している新型コロナウイルス感染症のため、10月25日に豊田高専に到着しました。私は来日してまだ日が浅く、日本暮らしに慣れていません。しかし、皆さんと力を合わせて勉強やいろいろなことに励みたいと思います。

現在、いつも手助けしてくれるモンゴル人の仲間たち、いつも優しく接してくれる人々のおかげで問題なく生活ができています。自由時間にはアニメを見たり、読書をしたり、スポーツをやったり、写真を撮ったりしています。このような、自分の興味に合わせて部活に入りたいと思います。これは友達をつくるチャンスになると思います。

これから2年間お世話になりますので、よろしく願います。



### よろしく願います

建築学科 3年 Damdindorj Oyuntugs (ダムディンドルジ オユントグス)

こんにちは。建築学科3年のオユカです。モンゴルで1年半ほど日本語を学んだあと、今年の10月に初めて日本に来ました。

4月に来日する予定でしたが、新型コロナウイルスのため前学期の授業は全て遠隔で受けました。わからないことや困ったことが多かったのですが、先生や先輩、チューターのおかげで無事に前学期を終えることができました。

10月からは対面授業が始まりました。日本での生活は戸惑うことばかりでした。ゴミの出し方をはじめ、寮のルールや授業などわからないことがたくさんありました。しかし、先生方やクラスの皆さんが優しく接してくれたおかげで、楽しく生活できています。大変ありがたいことだと思えます。

これからも日本での生活を理解し、頑張っ勉強していきたいと思えます。皆さん、よろしく願います。



## 初めての高専勤務です

事務部長 おかだ まさし  
**岡田 正史**



2020年4月に着任しました岡田です。総務課長も兼務しています。2、3年毎に転職しており、今回が11番目の勤務先となりました。これまでは国立大学、研究所の勤務が多く、高専で働くのは初めてとなります。高専は企業のニーズにマッチした人材を輩出しており、その点では大学より評価が高いと聞いていました。新たなチャレンジとなりますが、これまでの様々な業務経験を活かし、豊田高専の発展に貢献したいと思います。

着任早々、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止等への対応がありました。通常とは異なる学校運営をせざるを得ず、学生さんにもいろいろ負担があったかと思います。すぐに以前のおりに戻るのには難しいと思いますが、学生さんが安心して学べるよう、楽しい学校生活が送れるようサポートしていきたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

## 豊田&高専での新生活

総務課施設係 すぎした まさとし  
**杉下 雅敏**



令和2年4月1日付けで総務課施設係に着任しました杉下です。3月までは名古屋大学で5年間施設の仕事をしておりました。施設の仕事はどのようなものかと言いますと、新しい建物を建てたり、壊れているものを直したりすることが主な仕事です。仕事を通じて教職員や学生の方に施設面でサポートできるように、また、豊田高専のために貢献できるよう業務に励みます。

豊田高専で過ごしていく中で気づいたこととして、教職員や学生の方とすれ違うと「こんにちは」と挨拶することです。この当たり前のことが当たり前でできるのが素晴らしいことで、教育機関としてとても良い環境と感じました。その環境の中で一員として業務できることに感謝して過ごしております。

最後に、4月に名古屋市から豊田市に引っ越しまして本当に住みやすく魅力たっぷりの場所と思いました!!皆様が知っているおすすめ飲食店など豊田の魅力を教えていただけると幸いです。

## 外国語を学ぶ楽しさを伝えたい

一般学科 助教 えんどう そうま  
**遠藤 颯馬**



令和2年度4月より、一般学科に着任しました遠藤颯馬です。出身は、栃木県ですが、学部と大学院を東京で過ごしました。昨年度までは、東京都立産業技術高専で教壇に立っていました。愛知県での生活はまだ始まったばかりで、学生の皆さんに助けてもらうことも多く、感謝しています。

担当教科は、英語です。皆さんのなかには、留学を希望し、外国語に関心がある人も多く、大変うれしく思います。振り返ってみると、皆さんと同じくらいの年齢のとき、英語が大の苦手でした。日々机に向かって、横文字で書かれた文献を、辞書と首っ引きで読んでいたうちに、少しずつできるようになりました。最近では、翻訳ソフトも発達し、外国語学習に以前のような地道な作業は要らないと言わんばかりです。しかし、苦勞の末に、外国語を理解できたときの鋭い喜びは、何物にも代え難いものがあります。一緒に、知的喜びを分かち合えることを楽しみにしています。

## 高専ロボコンファンです

機械工学科 助教 かみなが まほ  
**神永 真帆**



2020年4月に機械工学科へ着任しました神永真帆と申します。茨城県ひたちなか市出身で、茨城高専の卒業生です。在学中は高専ロボコンに打ち込んでいたため、ロボコンの活動室の前を通ると、つつい中を覗きこんでしまいます。卒業後は大学に編入し、さらに大学院に進学して博士号を取得しました。その後1年間民間企業に勤めていたのですが、縁あって再び高専の一員となりました。

研究分野は微細加工系の分野で、マイクロ流路デバイスという、微細な流路内に実験系を構築する研究に取り組んでおります。大学時代は、創薬のための細胞培養・実験デバイス作製をテーマとして、異分野融合の楽しさと難しさを学びました。今後は、それに加えて加工法の検討にも取り組みたいと考えています。

豊田高専では、授業や研究指導を通じて、ものづくりの楽しさや、自分の専門領域から一歩踏み出す面白さを伝えていければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 着任のご挨拶

環境都市工学科 助教 ともべ はるか  
**友部 遼**



令和2年4月1日に豊田高専に着任致しました、友部遼と申します。私は茨城県出身で、大学時代を京都で過ごし、令和2年3月に学位を取得しました。私の専門分野は農業土壌学で、特に植物根と地盤材料の力学的相互作用について、実験と数値解析の両面から研究を行っています。

着任以降、コロナ禍の中で遠隔講義を実施したり、対面講義が再開してからはオンライン教材も活用しつつ対面で講義を行ったりと、目まぐるしく情勢が変化した一年でしたが、学生の向学心と諸先生方・関係者の皆様の手厚いサポートを頂き、なんとか年末まで無事仕事に打ち込めていることは大変に幸甚であります。引き続き厳しい情勢が続きますが、学生の主体的な学びを後押しできるよう、専門性を活かしつつ丁寧に仕事に取り組んでまいりたいと存じます。どうぞ宜しくお願いいたします。

## 高専に入学して高専で定年退職、 そしてこれからもチャレンジ

なかの たくみ  
情報工学科 教授 仲野 巧



コンピュータとの出会いは、福井高専で習ったFORTRANと計算機工学、それにPCが無い時代に卒業研究で製作した16ビットコンピュータでした。そして、大学に編入した後も豊橋技術科学大学の1期生のため、何もないところから32ビットコンピュータの設計と製作で研究しました。その後、富士通に入社して、銀行向け組込みシステムの回路、LSI、C言語によるRTOSの移植、通信ソフトの設計などから最初の振込機の銀行支店データベース作成まで、新しいものを創ってきました。

平成元年、豊田高専の情報棟が完成して3年生までが在籍する時に転職、赴任しましたが、毎日が授業と実験とテキスト作成の日々でした。

研究では、東京大学のVLSI設計教育センターのパイロットプロジェクトに参加して学術で初めてVHDLからロームでのチップ試作を成功させてVDEC設立に貢献し、そのチップで「リアルタイムOSのハードウェア化」として博士号を取得できました。

教育では、e-Learning教育コースの開発で文部科学大臣賞を受賞し、海外のe-Learning先進国であるニュージーランドから前後期の授業と試験をmoodleで実施し、トルコの高専機構JICAプロジェクトでmoodleの構築と活用を指導しました。さらに、学内では、高度なネットワークを構築するためにCISCOのCCNAインストラクターを取得しました。

今後は、兼業で設立した会社の仕事場として越前市の田舎にログハウスをセルフビルドし、趣味として教室などを行いながら、卒業生などが集まれる場所(B&B?)を提供する予定です。最後に、豊田高専がこれからも新しいことにチャレンジできますようお祈りしています。

## 街歩き

おおもり みねてる  
建築学科 教授 大森 峰輝



パンクオーバー市ガスタウンにて(2019年冬)

建築デザインの変遷を体感できるカリフォルニア大学バークレー校のキャンパス。100年前の建築物、低層の統一感ある街並みのバークレー市中心市街地。資産家が生活する自然環境豊かな別荘地であるモンレーやカーメル。様式主義の建築物が多く残るサンフランシスコ市ユニオンスクエア周辺。

20年程前に在在外研究員としてカリフォルニア州に滞在して感じた都市デザイン。特にそれ以降、海外の都市デザインに興味を抱くようになり、国内外を問わず多くの都市に出かけ街歩きをするようになりました。一度限りではなく何度となく同じ場所へ、季節や時間を変えて。必ず、新たな発見があります。その場所に関する資料収集も楽しいものです。これまでにヨーロッパ、北アメリカ、アジア…の多くの国々の都市、国内の多くの場所を訪れ街歩きました。本年度で定年退職いたしますが、これからも街歩きを続けていきたいと思っています。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈りいたします。

## 策に溺れて・・・

わたなべ まさと  
技術長 渡辺 正人



“何故君は物事を素直に見ることができないのか?”と問われて“面白くないからです。”と答えた。

30年前、旋盤すら知らない電気工学科の学生が主体のロボコンチームは、機械技術に関して絶望的でした。アイデア対決ロボットコンテストで、勝つのは技術力のあるチームばかり。なんとかしてアイデアで勝ちたかったのです。「オンリーワンかつナンバーワンを目指す!」と大言壮語を掲げましたが、7割は月並みのアイデアで、作るのが厄介なロボットでした。「動かんロボットはガラクただ!」を貫き、当初のアイデアとかけ離れても、とにかくロボットを動かし続け、ついに優勝しました。策士策に溺れまくって、学生と共に深夜まで全力で泳ぎ強靱な体力を得ました。更にどちらに泳げば生き残れるか、何となく分かるようになりました。瞬間、それまでの労力を無にする“ちゅぼ台返し”の蛮行に答えてくれた学生たちと共に、フィールドを世界(ロボカップ)に移しました。世界各国を回り、世界3位になり、上海万博にも参加しました。この結果は超優秀な学生たちと、豊田高専の教職員の皆様方のご協力のもとに達成できたものです。本当にありがとうございました。

## 企業と高専勤務を経て

ふじむら たかひろ  
情報工学科 嘱託教授 藤原 孝洋



2006年に函館高専に着任し、13年間の勤務を経て、豊田高専に2年間お世話になりました。高専に来る前は、企業で20年間研究開発に携わり、その後、無線ネットワークの研究に従事してきました。それぞれの業務に特徴があり、良い経験になりました。

最初に勤務した企業では、研究開発の基本的な考え方を学び、その後の研究および開発業務の基礎になりました。また、同期の仲間とは今でも会食を楽しんでいます。ただ、今年はまったく会うことができず、新型コロナウイルスの感染が早く終息することを願うばかりです。

企業での研究開発は、技術の進歩との競争であったように思います。新たな技術に着目し、独自技術として製品を開発することに没頭したことが思い出されます。特に、黎明期の画像処理技術と干渉縞を組み合わせたサブミクロンの検査装置の開発は、苦労も多かったけれど、やりがいのある仕事でした。

技術は常に進化します。特に、現在の情報技術の変化は著しく、それを追いかけることに力を注いでまいります。しかし、高専での基礎技術の教育を通して、基礎の大切さとともに、学生と新たな研究に挑戦する楽しみを味わうことができました。学生の皆さんには、技術の手法だけでなく、技術の基礎となっている原理を理解し、新たな技術開発に挑戦してほしいと思います。

最後に、短い間でしたが、豊田高専での経験に感謝いたします。皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

# 令和3年3月卒業・修了予定者の就職進路状況

(令和3年2月25日現在)

## 機械工学科

- 食料品・飲料・たばこ・飼料  
カルビー(株) (1)  
キリンビール(株) (1)  
森永乳業(株) (1)
- はん用・生産用・業務用機械器具  
(株)イシダ (1)  
(株)ニコム (1)  
富士フィルム(株) (1)  
●電子部品・デバイス・電子回路  
浜松ホトニクス(株) (1)
- 輸送用機械器具  
(株)小松製作所 (1)  
新明工業(株) (1)  
豊田合成(株) (1)  
プライムアースEVエナジー(株) (1)  
(株)マキタ (1)  
三菱重工業(株) (1)
- 製造業(その他)  
日東電工(株) (1)  
(株)畑屋製作所 (1)  
パナソニックエコシステムズ(株) (1)
- 電気・ガス・熱供給・水道業  
中部電力(株) (1)  
東京電力ホールディングス(株) (1)  
日本原子力発電(株) (1)
- 運輸業、郵便業  
東海旅客鉄道(株) (2)
- サービス業  
ダイヤモンドヘッド(株) (1)

- 進学  
名古屋工業大学 (1)  
岐阜大学 (1)  
豊橋技術科学大学 (5)  
豊田工業大学 (3)  
豊田高専専攻科 (4)

計36名

## 電気・電子システム工学科

- 建設業  
日揮ホールディングス(株) (1)
- 鉄鋼業、非鉄金属・金属製品  
(株)LIXIL (1)
- 電子部品・デバイス・電子回路  
浜松ホトニクス(株) (1)  
(株)FUJII (1)
- 電気・情報通信機械器具  
(株)デンソー (1)
- 輸送用機械器具  
日本車輻製造(株) (1)
- 電気・ガス・熱供給・水道業  
中部電力パワーグリッド(株) (1)
- 情報通信業  
NECフィールディング(株) (1)
- 運輸業、郵便業  
東海旅客鉄道(株) (1)
- その他の専門・技術サービス業  
三菱電機エンジニアリング(株) (1)

- 進学  
名古屋大学 (2)  
筑波大学 (2)  
名古屋工業大学 (2)  
三重大学 (1)  
東京農工大学 (2)  
新潟大学 (1)  
群馬大学 (2)  
京都工芸繊維大学 (1)  
豊橋技術科学大学 (8)  
東京都立大学 (1)  
豊田工業大学 (2)  
豊田高専専攻科 (6)
- その他  
豊田高専研究生予定 (1)

計41名

## 情報工学科

- はん用・生産用・業務用機械器具  
村田機械(株) (1)
- 電気・情報通信機械器具  
ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーション(株) (1)  
プラザー工業(株) (1)  
(株)デンソー (1)
- 輸送用機械器具  
トヨタ自動車(株) (1)
- 情報通信業  
アイシン・ソフトウェア(株) (1)  
NTTコムエンジニアリング(株) (1)  
(株)NTTフィールドテクノ (1)  
(株)サインポスト(株) (1)  
CTCテクノロジー(株) (1)  
中部テレコミュニケーション(株) (1)  
東邦ガス情報システム(株) (1)  
(株)トヨタシステムズ (1)  
CTCテクノロジー(株) (1)  
中部テレコミュニケーション(株) (1)  
東邦ガス情報システム(株) (1)  
(株)トヨタシステムズ (1)  
EPAアイビエムテクノソリューション(株) (1)  
(株)Papillon (2)  
freee(株) (1)  
(株)メンバーズ (1)  
(株)デンソークリエイト (2)  
(株)ピーネックスソリューションズ (3)
- 運輸業、郵便業  
東海旅客鉄道(株) (1)
- その他の専門・技術サービス業  
三菱電機エンジニアリング(株) (1)  
(株)トヨタプロダクションエンジニアリング (1)
- 教育、学習支援業  
(株)わ (1)

- 進学  
京都大学 (1)  
名古屋大学 (1)  
筑波大学 (1)  
名古屋工業大学 (1)  
岐阜大学 (1)  
岐阜大学 (1)  
岡山大学 (1)  
豊橋技術科学大学 (1)  
愛知県立大学 (1)  
名古屋国際工科専門職大学 (1)  
サイバー大学 (1)  
豊田高専専攻科 (4)

計41名

## 環境都市工学科

- 建設業  
(株)小島組 (1)  
清水建設(株) (1)  
ショーボンド建設(株) (1)  
(株)NIPPO (1)
- 食料品・飲料・たばこ・飼料  
サントリーホールディングス(株) (1)
- 化学工業、石油・石炭製品  
wiring(株) (1)
- 電気・ガス・熱供給・水道業  
大阪ガス(株) (1)  
中部電力(株) (2)  
電源開発(株) (1)  
東邦ガス(株) (2)
- 運輸業、郵便業  
東海旅客鉄道(株) (1)  
西日本旅客鉄道(株) (1)
- その他の専門・技術サービス業  
NTTインフラネット(株) (1)
- サービス業  
ヴェオリア・ジャパン(株) (1)  
(株)NTTフィールドテクノ (1)
- 公務員等  
中部地方整備局 (1)  
春日井市役所 (2)  
豊田市役所 (1)

- 進学  
大阪大学 (1)  
北海道大学 (1)  
名古屋大学 (2)  
信州大学 (1)  
埼玉大学 (1)  
富山大学 (1)  
豊橋技術科学大学 (1)  
長岡技術科学大学 (1)  
東京都立大学 (1)  
豊田高専専攻科 (4)
- その他  
豊田高専研究生予定 (1)

計36名

## 建築学科

- 建設業  
(株)大林組 (1)  
鹿島クレス(株) (2)  
(株)協和コーポレーション (1)  
三建設備工業(株) (1)  
ジェイアール東海建設(株) (1)  
(株)大気社 (1)  
タイタン (1)  
太陽工業(株) (1)  
(株)竹中工務店 (1)  
戸田建設(株) (2)  
長谷川体育施設(株) (1)  
(株)平成建設 (1)  
矢作建設工業(株) (1)  
(株)リビングサーラ (1)
- 電気・情報通信機械器具  
キャンメディカルシステムズ(株) (1)
- 鉄鋼業、非鉄金属・金属製品  
(株)LIXIL (2)
- 電気・ガス・熱供給・水道業  
大阪ガス(株) (1)  
中部電力(株) (2)
- 運輸業、郵便業  
東海旅客鉄道(株) (2)
- 不動産業、物品賃貸業  
三菱地所プロパティマネジメント(株) (1)
- その他の専門・技術サービス業  
アーキ・プロ(株) (1)  
(株)浦野設計 (1)  
(株)丹青社 (1)
- サービス業  
中部国際空港施設サービス(株) (1)
- 公務員等  
春日井市役所 (1)  
小牧市役所 (1)

- 進学  
名古屋大学 (1)  
三重大学 (3)  
豊橋技術科学大学 (7)  
東京都立大学 (3)  
高知県立林業大学校 (1)  
豊田高専専攻科 (3)

計49名

## 電子機械工学専攻

### 機械工学科

- 製造業(はん用・生産用・業務用機械器具)  
(株)ATTARArt (1)
- 製造業(その他)  
ヤマハ(株) (1)
- 情報通信業  
ソフトバンク(株) (1)  
(株)トヨタシステムズ (1)

- 進学  
名古屋大学大学院 (1)  
広島大学大学院 (1)
- その他  
未定 (1)

計11名

### 電気・電子システム工学科

- はん用・生産用・業務用機械器具  
オークマ(株) (1)
- 輸送用機械器具  
(株)SUBARU (1)
- 情報通信業  
(株)キャッチネットワーク (1)

- 進学  
豊橋技術科学大学大学院 (1)

## 情報科学専攻

### 情報工学科

- 電気・情報通信機械器具  
(株)デンソー (1)
- 情報通信業  
(株)トヨタシステムズ (1)  
(株)FIXER (1)

計3名

## 建設工学専攻

### 環境都市工学科

- 建設業  
昭和コンクリート工業(株) (1)  
日本工営(株) (1)
- 公務員等  
愛知県庁 (1)

- 進学  
名古屋大学大学院 (1)  
名古屋工業大学大学院 (1)

計12名

### 建築学科

- 建設業  
大成建設(株) (1)  
(株)中目設計 (1)  
(株)リブテック (1)
- 運輸業、郵便業  
東海旅客鉄道(株) (1)
- 公務員等  
名古屋港管理組合 (1)

- 進学  
北海道大学大学院 (1)  
神戸大学 (1)

( )は人数

## Calendar

4 APRIL 2020

4月6日~5月1日 特別臨時休業

5 MAY 2020

5月 7日~ 遠隔による前学期授業開始

6 JUN 2020

6月 17日 安全を誓う日(ビデオ配信)

7 JULY 2020

8 AUGUST 2020

8月 8日 オンライン体験講座  
8月8日~29日 夏季休業(本科)  
8月8日~9月1日 夏季休業1(専攻科)

9 SEPTEMBER 2020

9月 7日 前学期通常授業開始  
9月15日~30日 夏季休業2(専攻科)

10 OCTOBER 2020

10月 5日 後学期授業開始  
10月10日~11日 オープンキャンパス  
10月14日 避難訓練  
10月15日 体育祭  
10月25日 ロボットコンテスト地区大会(オンライン開催)  
10月31日~11月1日 こうよう祭

11 NOVEMBER 2020

11月22日 第51回全国高等専門学校ラグビーフットボール大会  
関東信越・東海北陸地区代表決定戦  
11月29日 ロボットコンテスト全国大会(オンライン開催)

12 DECEMBER 2020

12月5日~6日 全国高専デザインコンペティション  
12月24日 閉寮  
12月25日 冬季休業開始(本科・専攻科)

1 JANUARY 2021

1月4日~9日 第51回全国高等専門学校ラグビーフットボール大会  
1月 7日 授業再開  
1月 23日 令和3年度推薦選抜面接試験  
1月 30日 第14回全国高等専門学校  
英語プレゼンテーションコンテスト

2 FEBRUARY 2021

2月 10日 後学期授業終了(本科)(専攻科)  
2月 21日 令和2年度学力選抜入学試験

3 MARCH 2021

3月 17日 修了式・卒業式

